

経営比較分析表／団体全体（令和2年度決算）

鹿児島県 鹿児島市

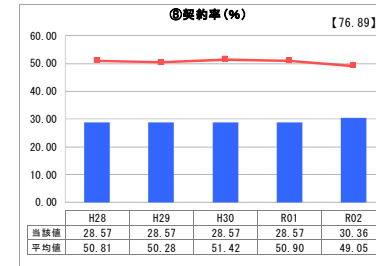
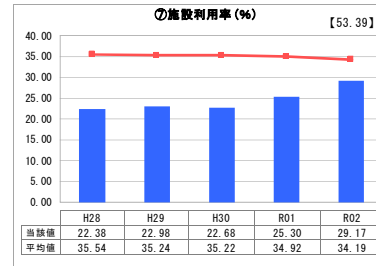
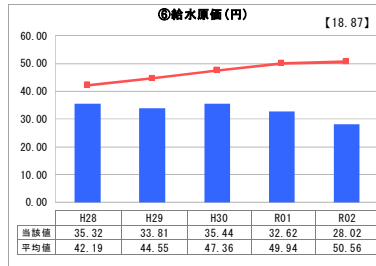
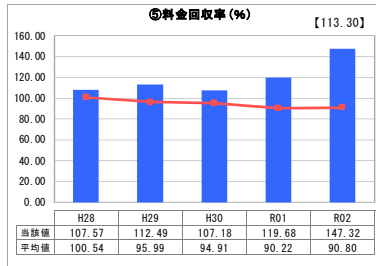
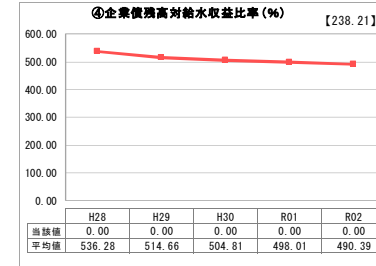
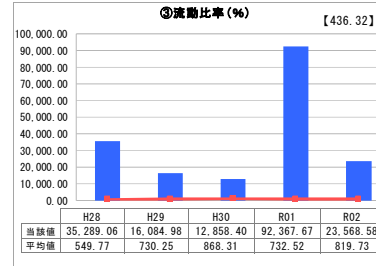
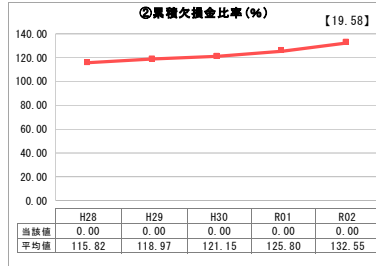
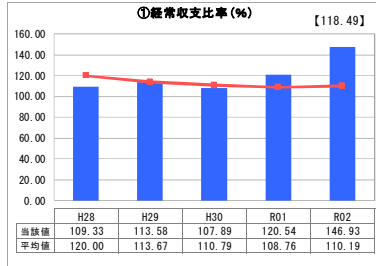
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	1,680	極小規模	1	490
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	99.7	4	510	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

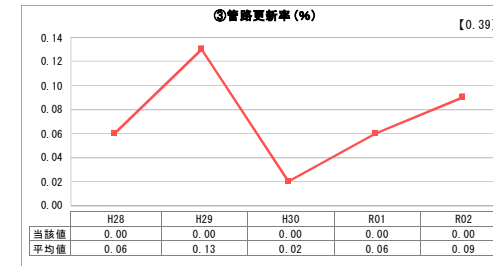
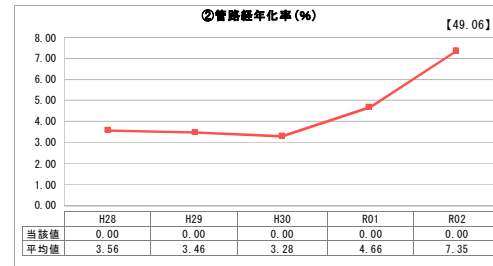
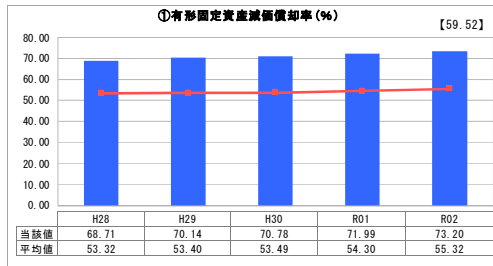
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率と⑤料金回収率は、各年度100%以上であり、費用を工業用水道料金等で賄えている。①⑤とも契約水量の増加に伴い給水収益の増加により増加した。
 - ②累積欠損金比率は各年度0で、これまでの累積欠損金が生じていないことを示している。
 - ③流動比率も各年度100%以上で、短期的な債務を支払える現金等を保有できている状況である。元年度は流動負債の減少により大幅に増加したが、2年度は例年どおりとなっている。
 - ④企業債残高対給水収益比率は各年度0で、企業債の借入が生じていないことを示している。
 - ⑥給水原価は、全体的に減少傾向にあるものの、類似団体に比べ低い状況にあり、費用が抑えられている。今後とも計画的かつ効率的な事業運営により、同原価の抑制に取組んでいく。
 - ⑦施設利用率は、類似団体に比べ低い状況にあるが、増加傾向である。増加の理由は、①⑤と同様である。
 - ⑧契約率は、28年度以降ほぼ横ばいであり、類似団体に比べ低い状況にある。
- 責任使用水量制により一定の収入は確保できるものの、今後とも計画的かつ効率的な事業運営を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、年々増加傾向にあり、既存施設の経過年数が高まっている。
 - ②管路経年率は各年度0で、法定耐用年数を経過した管路延長がないことを示している。
 - ③管路更新率は各年度0で、当該年度に更新した管路がないことを示している。
- 既存施設の経過年数が高まっており、維持管理や経年劣化に伴う改良・更新に要する費用の増加が見込まれる。

2. 老朽化の状況



全体総括

責任使用水量制により一定の収入は確保できるものの、今後、既存施設の維持管理や経年劣化に伴う改良・更新に要する費用の増加が見込まれるなかで、工業用水を安定供給するため、計画的かつ効率的な事業運営を行っていく必要がある。